



何より患者さんの立場で
お困りごとについて共に考え、**人生**を支える



「医療福祉相談室の動画はこちら」

医療福祉相談室長・患者支援室長・主任医療社会事業専門職

まんたに かずひろ
萬谷 和広



身寄りなし・核家族化・高齢化特有の相談が増加

医療福祉相談室では、社会福祉士が患者さんやそのご家族の相談にのり、お困りごとの解決や緩和を図っています。有資格者7名というのは人材的に恵まれており、手厚くきめ細やかな支援が特徴です。

患者さんのお悩みは医療費や生活費など経済的なこと、社会復帰、療養場所や療養のしかた、家族関係、心理面など実に多岐に渡ります。近年では、高齢の患者さんが入院されると、残されたお一人が家事もままならず生活に困るとか、独居の方で意識レベルの

落ちている患者さんの医療同意の問題など、身寄りがいない方や、核家族化・超高齢化を反映した支援が急激に増えてきました。それに伴い、今後のミッションとして、医療だけではなく介護・福祉・生活とあらゆる機関との地域連携の強化を最重要と位置付けています。必然的に関わる人物が多くなりますので、コロナ収束後には、顔を合わせて意見や情報を交換する機会を積極的に設けていきたいと考えています。

住民の方々の声を**支援の現場**へ

もうひとつ推進したいのは、地域の方々の声を聞くこと。コロナの前には、支援がなかなか行き届かない河内長野の山間部にお住まいの方々を訪ね、心配事や望むことなどをインタビュー調査しました。コロナの落ち着いた際にはそのような活動を再開し、また支援提供者の集まる場に住民の方を招くなど、リアルで率直なご意見を聞くことで、

医療と退院後のサポートにつなげていければと思っています。

掛かりつけ医の先生方には、治療や入院で当院を利用される方が何か不安を漏らされるようなことがあれば、どうぞ私たちにその声を届けてくださいとお伝えしたいと思います。

